雑感　3 項目解答というサプライズ

■　いささか旧聞に属するが，2021 年（昨年）7 月 30 日に，令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告」及び「令和 7 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」が文科省より通知された．

共通テストについては，「情報」が課されることが大きくニュースで取り上げられた．これはこれで，受験生の負担増，指導の在り方，指導者問題，カリキュラムをどうするかなど影響大である．

■　数学では数学①の数学 IA において選択問題が無くなることも変更点の 1 つだが，数学②において数学ⅡBC だけになり，『数学 II，数学 B，数学 C』の出題範囲のうち，「数学 B」及び「数学 C」は，「数学 B」の 2 項目の内容（数列，統計的な推測）及び「数学 C」の 2 項目の内容（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）のうち 3 項目の内容の問題を選択解答するという変更が大きい．

この数学ⅡBC は想定内だが，3 項目は全くの想定外である．配点もどうなるのであろうか？

また，この方向が各大学の個別試験科目にもかかわっていく．

■　これによって，国公立大などを目指す文系の生徒は数学 I，A，B，C の履修が必要となり，大きな負担増だ．高校現場には大きな衝撃が走ったことと想像する．

カリキュラムの組み直しを迫られたところもあるに違いない．

共通テストの私の想定は，数 B の 2 項目と数 C の 2 項目を合わせた 4 項目から 2 項目の選択解答であった．

■　なぜ，2 項目の選択解答ではなく 3 項目もの選択解答にしたのであろうか．

数 B の 2 項目と数 C の 2 項目を合わせた 4 項目から 2 項目の選択解答だと，数 B，C の双方を履修する理系生徒が有利だから？ いや，理系の生徒と文系の生徒の受験先がほぼ重ならないとこからすれば，この理由は当たらない．

つらつら考えるに，「統計的な推測」を避けて数 B を履修せず，数 C で対応しようとする流れを食い止めるためとしか考えられない．

大本は，変な配列の学習指導要領が編成されたことにあり，その中の統計教育の重視が根源である．

「統計的な推測」を数 B に置き，数 A，B，C にそれぞれ（訳の良くわからない）「数学と人間の生活」「数学と社会生活」「数学的な表現の工夫」を置き，これら 3 つは選択履修の可能性はほとんどないだろうから，数 B を履修すれば必然的に統計を学ばざるを得ないという学習指導要領になっている．その数 B の履修を，ひいては「統計的な推測」の履修をメンツにかけてあくまでも遂行したいのだ．

■　そもそも，文系生徒に「数列」，「統計的な推測」，「ベクトル」，「平面上の曲線と複素数平面」をすべて履修させるという負担が必要なのか．もちろん，多くの内容を学ばせることに意味がなくない．だが，負担との兼ね合いである．大学で彼らが何を専攻するかによるが，この 4 項目で言えば多次元量を扱うための基礎としての「ベクトル」程度で十分な気がする．

もっとも，最近は統計学を学ばせる流れも濃厚であることは事実なので，それを考えれば「統計的な推測」といったところも候補に上がらなくはないが，それは大学で系統的に行えばよく，その計算や記述の基礎にかかわる「数列」を学ばせた方がまだ良い．

■　本当にこの方向で進むのだろうか．それとも「今後の試験実施状況等に応じて変更し得るものである」とあるから，変更の余地があるのだろうか．

岸田総理は「聞く力」に長けているそうだ．18 歳以下の子どもに 10 万円ずつをばらまく話では，現場の話を聞いた結果全額現金でも良いとした．オミクロン株の濃厚接触者である受験生について，共通テストは第 1 日程を受験させない方向を，反対意見に耳を傾け方針変更した．

こういった対応を融通無碍と評価する人もいるようだが，最初の政策案があまりにも詰めが甘く杜撰過ぎるというのが正しかろう．ばらまき話では多くの市町村を混乱のるつぼに陥れ，共通テストの受験問題では，多くの受験生を恐怖と不安におののかせた結果の帰結である．

このような総理だから，文系生徒の負担が多すぎて気の毒だという声を大きく挙げたら，もしかして方針が変わるのかもしれないというのは，さすがに甘いか．

2022 年 01 月 06 日